



苦着がけ左家体在大華に左い



京都府酒販国民健康保険組合理事長

森 清美 氏

とにかく気さくで、明るい。こんな人柄もあつて2004年から理事長を務める。81歳である。明治39年創業の老舗酒販店の3代目だったが、いまはコンビニを経営。店の切り盛りは4代目の息子さんに任せている。「規制緩和による大手量販店の進出や後継者不足の影響もあり、食料品なども扱う多角経営の酒販店が多くなりました」

子どもの見守り隊も

商売柄、酒が好きな組合員さんが多いというが、「これまではビールをちょっといただいていたんですが、血圧が少し高くなってきたので4年前からお酒は控えています。タバコはやりません」。健康法は、午前5時半に起床して午後9時半には就寝する「早寝早起き」だ。ラジオ体操をした後、午前7時40分から地元・小学校の子ども見守りのため登校時の通学路に立つ。「おはよう！ 子供に声を掛けると気持ちがよくないなあ」

やっぱり歩かなだめ

夕食後には4歳年下の奥さんと二人で、自宅近くのJR京都駅周辺を中心に約1時間散歩する。「毎日コースを変えて歩いていま



す。新しい店ができてきたりして、毎日いろんな発見があります。足腰が弱ったらあきません。健康のためにもやっぱり歩かなだめです」。散歩の後、趣味のジャズやポピュラー音楽を聴くのが至福のひと時だとか。

酒販関係の仕事のほか、日赤奉仕団、納税協会、祭りの代表など地元学区の役職を数多く抱え、地域の活動に大忙しの日々だ。学区の社会福祉協議会の会長として、小学校の交流ルームを借りて月1回、地元のお年寄りを対象にした健康すこやか学級も開いている。「みんな元気で、歌を歌う時の声

が大きすぎて学校から少し静かにしてもらえないかといわれるぐらいです。みんな友達になりワイワイガヤガヤ。楽しいですよ」

「今後の夢ですか？ 京都に住んでも、醍醐寺などまだ行ってないところがたくさんあるんです。敬老バスを持ってますので、家内といろんなところへ行きたいですな」。「それに……」と、森さんが照れくさそうに言った。「家内とは恋愛結婚なんですけど、商売人の家に嫁いで苦労かけたと思います。よう尽くしてくれています。家内だけは大事にしたいと思っています。僕より先にいったらあかんよと言ってるんです」